

第5期第14回生涯学習センター運営協議会議事要旨

〔日 時〕 2022年3月21日（月）14：00～16：00

〔場 所〕 町田市生涯学習センター 学習室1・2

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：陶山慎治（会長）、古里貴士（副会長）、相澤真理、荒井仁、荒井容子、大野浩子、関村浩、堂前雅史、西澤正彦、服部くに子、山口隆三、以上11名（内リモート参加1名）

〔欠席者〕 なし

事務局：樋口センター長、持田担当課長、岡田管理係長、瀧澤事業係長、三橋主任

〔傍聴人〕：2名

〔資 料〕【1】 2021年度町田市生涯学習センター事業実績報告

【2】 （仮）最終報告「市民ニーズに沿った生涯学習センター事業の推進について」（案）

【3】 最終報告に掲載する各委員のコメント

1 報告事項

（1）センター長報告

- ・第5期は第14回、今回が最後になる。3点報告させていただく。まず1点がコロナの関係である。今日、丁度まん延防止等重点措置が解除されると報道があったが、解除に併せ、現行、1時間短縮していた開館時間を、明日から通常どおり22時閉館とする。
- ・2点目はワクチン接種会場について、現時点では9月まで開設を予定している。3月26日から子どもの接種も始まる。
- ・最後に主な事業の開催状況だが、まちチャレの2022年度の募集を開始した。2022年度は1枠増の7事業になる。3月26日に、今年度実施団体の成果発表会と来年度の説明会を併せて7階ホールで開催する。

2 議題

（1）2021年度事業実績報告について

【事務局】資料1の1、生涯学習推進事業から説明する。推進事業は学習情報の収集発信、学習講座、ボランティアバンク、組織間連携からなっている。

情報発信は、生涯学習ナビなどの冊子の発行、「まちだの学び」という年間報告書の発行、ホームページやSNSが主要な情報提供手段となっている。今年度は7階にコロナワクチン接種会場が開設されたため、接種の待機時間中に見ても

らうため、会場にモニターやラックを設置し、生涯学習情報の提供を試みた。また、Twitterでは2月末現在で118件の情報発信を行い、フォロワーは年度当初から約200人増え、458人となった。コロナの関係で事業数も減少しており、発信回数は減少している。また、今後の課題として、オンラインによる発信強化のために、著作権や知的財産権といったクリアしなければいけない問題があり、この部分の検討が必要な点、同時にデジタルデバインド対策として、情報発信の多チャンネル化を挙げている。

学習相談は、窓口で学習相談用に職員を一人配置して対応している。一時期減少していた相談件数もウイズコロナという形で少しずつ増えてきており、概ね月十数件程度の、例年並みの水準に戻りつつある。相談内容は、事業や催し物に対する質問、サークル紹介が多い。中には講座名とか実施場所がよく分からない状態での問い合わせや、自分で教室を主宰したいといった本来、民間の区分に属するような相談もあり、生涯学習センターの業務だけではなく、関係機関や民間の生涯学習情報も把握する必要が生じている。こういった相談を後に活かすために整理してデータベース化を検討している。

生涯学習ボランティアバンクは、下半期5件の利用申請があり、申請件数は今年度16件となったが、うち半分の8件がコロナの影響で中止になった。指導者側は新たに4件登録があった。利用は少しずつ増えてきているが、まだ、コロナの流行前の水準には戻っていない。また、利用者が市民サークルから徐々に行政組織や公的団体に推移している。今年度は16件中15件がそういった組織や施設だった。また、町田市では全小中学校のコミュニティスクール化を行っており、学校と地域の指導者をつなぐ仕組みに注目が集まっている。こういったところに制度を活用していく必要がある。

組織連携は、さがまちコンソーシアムとの連携を主に行っている。さがまちコンソーシアム主催の「さがまちカレッジ」という講座のうち、15講座に生涯学習センターが協力している。また、センター主催の「ガクマチEXPO」、「生涯学習お悩み解決LABO」には、さがまちコンソーシアムに加え、町田市地域活動サポートオフィスにも協力いただいている。他に、庁内他部署の生涯学習事業に会場提供を行っており「まこちゃん教室」や「夏休み子ども体験塾」、「スマホ講習会」などが行われている。現在、7階がワクチン接種会場になっていて、会場調整がかなり苦しい状況になっているが、こうした単なる場所の提供から、もう少し連携の質を高めていく必要がある。

施設貸出は、生涯学習センターの諸室の貸出と小中学校の特別教室の開放の2つがある。生涯学習センターの施設貸出は、2月末現在、利用率64%、利用件数9,148件、利用人数191,747人となっている。コロナ前の2019年度の同時期で、利用件数は12,000件、利用人数が15万人なので、一見するとコロナ前の水準に

戻っているように見えるが、これはワクチン接種利用者も含めた数字であり、ワクチン接種者を除くと、利用率40%、利用件数5,800件、利用人数5万人強という数字になり、従来水準には戻っていない。ワクチンの会場の問題も、当初は臨時的な対応として、コロナワクチン接種会場を受け入れたが、長期化してきているため、学びの場の確保へ向けた動きを強めていく必要がある。また、設置から20年過ぎ、設備も老朽化したため、修繕を計画的に実施していきたい。

特別教室の開放は、従来から実施している小中学校4校については、利用率4.5%で、ほぼ例年並みの利用率に留まっている。土日祝日に利用が偏っているところも従来と変わっていない。

また、3月議会に上程するため、現時点では「案」という形だが、来年度、町田一中の開放を開始する予定である。町田一中の開放では、予約システムの導入、個人向け開放の実施、Wi-Fiの設置といった、従来の学校開放より使いやすい環境を導入予定である。既存校は交通の便の悪さもあって利用率が低水準に留まっている経緯があるが、町田一中は交通の便も良く、設備も整っている。今後の学校開放の方向性を決める、さきがけ的な事業となると考えている。

【事務局】 続いて1-2の市民大学について報告する。上半期は以前、報告しているので、下半期の内容について報告する。「多摩丘陵の自然入門」、こちらは通年で実施している。それから「まちとくらしのエコ入門」、「町田の歴史」、「まちだ市民国際学」、「人間関係学講座」、「こころとからだの健康学」、「町田の福祉」、「まちだの芸術・文芸」を後期プログラムとして実施しているが、概ね各講座とも8回程度のコースを組んでいる。自然は通年なので回数は他の講座に比べて多い。今年度、前期の講座はコロナの影響で日程の変更などがあつたが、後期は概ね予定通り開催できた。ただ、応募数は、「自然」は、応募倍率が2倍を超えていたが、あとの講座は1倍台だった。応募者数を増やすため、実施する曜日などの要素を検討していきたい。アンケートでは、受講者の満足度は高く、こういった声を励みにして、より一層いいものを構築していきたい。講座にもよるが、修了後に既存の修了生団体に加入する方もおり、こうした動きも維持・拡大し、市民大学を受講した方が地域に知識を還元していく動きを活発化させていきたい。

それから、講座事業そのものではないが、どういった方々が市民大学から活動を展開しているのかについて報告する。先ほど少し申し上げたが、講座修了後に、団体を立ち上げている方々の紹介をWebやガイドブックでお知らせしている。ガイドブックは講座修了後に受講者に配布して、興味のある方は参加していただきたいとのアナウンスを行っている。また、2021年度はオンライン化の試みとして「町田の歴史」について、講演を従来の集合形式で実施したほか

に、併せて録画配信を行った。市民大学については以上である。

続いて、ことぶき大学について報告する。こちらは後期に「音楽」、「脳トレ」、「探々ゼミナール」の3講座を実施した。市民大学の応募倍率は全体に低調であったが、こちらは「音楽」コースで2.6~4.3と比較的大きな反響をいただいた。受講者の評価も良好であった。「脳トレ」については、ことぶき大学が60歳以上の方が対象ということもあり、人生100年時代と言われている中、認知症に対する関心があつてか、かなりの応募があつた。受講者からも「脳の活性化についていい経験ができた」と好評をいただいた。「探々ゼミナール」については、こちらは実施期間が長いこともあつてか、応募倍率は下がってきている。今年はチューター（指導補助者）団体の方々が、各回、工夫のある講座を実施しており、受講者の満足度は結構高かつたようだが、応募者数についても上げていきたい。ことぶき大学については以上である。

続いて、公民館事業について報告する。最初は「まちチャレ」についてである。先ほど話があつたが、現在、新年度の募集を行っている。募集自体は早くから始まるが、応募団体と打ち合わせをして、受講者の募集を行い、実際に事業を展開していくという流れであり、どうしてもスケジュール的に実施が下半期に集中してしまう。今年度は6講座を行った。詩人の八木重吉であつたり、児童期から思春期の心と性であつたり、公共施設の考え方であつたり、生きづらさについてだつたり。ロコモ予防体操と多文化共生については、私も実際に講座を担当したが、応募団体の多くは、ほぼ1回程度開催してゴールといった感じであつた。逆に受講者の満足度は総じて高かつたと感じている。実際に担当したロコモ体操では、講座受講者が修了後に、自主的なサークルを立ち上げており、今後の学習の発展にもつながっている。

続いて、家庭教育支援事業の報告を行う。前期同様、後期もバリエーション豊富な講座を実施している。家庭教育事業についても、実施日が平日であつたり、お子さんの体調であつたり、コロナに対して保護者が過敏に反応されたりといったことがあり、応募倍率は低めになっている。受講者からは、子育ての悩みが共有できたとか、新たな仲間ができたといった声がある。これらの声を励みに、今後、工夫しながら応募者数を増やし、学びの場を展開していきたい。

次に、障がい者青年学級事業について報告する。こちら前期から引き続き展開しているが、コロナの影響を受け、障がいを持った方が対象ということもあつて、実施については、一部リモートを取り入れるなど神経を使ったところである。コロナ禍で培った臨機応変な対応は、今後の事業にも活かされると考えている。また、今年度は「聞こえないとともに暮らす」という講座を6回コースで実施した。本事業は町田ゼルビアの協力をいただき、野津田のスタジアム

でのサッカー観戦とバックヤード見学を取り入れた。いろいろな異なるカテゴリーの障がいを持った方々が参加し、交流を深めた。新年度は、また、異なる障害の方を対象にした事業を予定している。

続いて、生涯学習センターまつりだが、コロナの影響を考え、インターネット型で開催した。3月末までネット上で実施している。参加者がより参加しやすくなるようであれば、今後もインターネットでの開催も工夫として入れていきたい。

その下の国際交流センターとの共催事業については、本日実施しているため、一部未集計の部分がある。

地区協議会との連携事業は鶴川地区に加え、玉川学園・南大谷地区、木曽地区の3地区で、それぞれ事業を展開した。木曽地区では、今、巷でよく言われているデジタルデバイド対策事業を、生涯学習センターで実施しているスマホの相談室を地域に出張する形で実施した。

まなびテラスは、もともと夜間のみ実施していたが、このところ、コロナへの対応として、午後と夜間の二部制にして実施していた。現在はコロナに留意しながら日常に戻す方向になってきており、今後は、もともとの夜間実施に戻すことを考えている。本事業は実習生や支援者の協力を受けて実施しているが、肝心の学習者の方に新規参加者が少なく、テコ入れして充実した内容にしていく必要があると考えている。

最後になるが、デジタルデバイド対策事業として、「何でもスマホ相談室」という事業を実施した。これまでも運営協議会で報告しているが、かなりの盛況である。新年度の申し込みも始まっているが、人気は衰えていない。2021年度に続き、2020年度も要望にお応えしていきたい。受講者はやはり70代、80代の高齢者が多くを占めており、この辺りのニーズはしばらく続くと考えている。

また、先ほどの地区協議会との連携でもお話したが、出張版の「何でもスマホ相談室」も実施しており、今年度は10回実施した。木曽地区協議会との連携のほか、小山田桜台地区や堺市民センター、南市民センターで展開した。今後もアウトリーチとして、できるだけ多くの地域で実施したい。スマホの相談室は、マンツーマンで親切に教えてもらえる点、集合形式ではちょっと聞くのがはばかれるようなことでも丁寧に教えてもらえる点が好評で、リピーターも増えている。

【会長】 今の報告について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。

【委員】 一つだけ。オンライン学習について、今年度は試行的に市民大学の歴史コースで実施しているが、これは録画配信で、本当のオンライン配信ではない。試行してみて、どういう反省点があって、今後どうすべきと考えているのか。他の講座にも拡大していく考えはあるのか。拡大すれば、通えない人も自宅で学

習できるし、私としては、拡大してもらいたいと考えている。私は歴史コースを受講したが、意外と便利に感じた。受講後にインターネットにアクセスして復習ができる。こういう点でも有効なやり方だと思っている。ぜひ、市民に広める必要があるのではないか。なぜ、広まらないのか不思議に思っている。

【事務局】現在、今後の方向や技術的なことを検討しているところである。今年度、歴史コースでは録画配信を行ったが、来年度は各講座の公開講座をライブで配信できないか検討している。場合によっては録画配信になる講座も出てくるかもしれないが、ライブを考えているところなので、アドバイス等あれば、適宜いただけるとありがたい。

【委員】今、こういう世の中で、なぜオンライン学習が盛り上がってこないのか不思議に感じている。この辺りは今後の課題と感じており、一緒に進めていきたいと思う。

【委員】（今発言された）委員にとっては便利なのだと思うが、人によっては、デジタルデバイスもそうだが、ファイルを見るのは高齢で目が疲れて駄目だとか、いろいろ感覚の違いがある。そういう部分も今後、話し合っていくといい。

私からの質問だが、学校開放で、町田一中はオンライン対応との話があったが、他の学校は対応していないということか。それが1点。もう一つ、学習相談について、何を学びたいかということだが、公民館の事業ということなのか。相談者が講座を特定せずに相談に来ることが困るような話や民間事業の対応もできるために民間事業もフォローしますという話だったが、営利活動である民間事業をどこまでフォローするのか。フォローしきれないのではないか。一方、運動団体などいろいろなところで活動がある。一番典型的なのは公民館、生涯学習センターの利用サークルだが、こんなのがありますよと紹介することもできる。学習相談のイメージが、何かプログラムがあって「ですよ」みたいなことではなく、その方が何を求めているのか、もしかしたら学習じゃなく福祉とかそういうものかもしれないが、生涯学習センターとか公民館の窓口は、そういう相談を丁寧に捉えることが求められているはずである。学習相談という言葉になってしまうと、枠になってしまう。相談の中に学習の側面があった時に、いろいろその人が広がって、自分が何を求めているのかがわかるぐらいの、ある面で教育的な、上から目線ではない教育的な、そういう対応ができる力のある職員が学習相談を担当できれば、また、悩んだら職員間で相談できるようなメカニズムがあればいい。なければ、ぜひ意識的に市民の相談とそれを支える学習に繋げる方法というのをやるといいのではないか。サークルに入って、仲間を作って支援するみたいなことにもなるのではないか。ぜひ学習相談について、私の意見というか感覚を伝えたい。

それから、全体について、ようやく最近、町田の状況がなんとなくわかって

きたような気がしている。今日は事業報告、下半期の事業報告ということで、この間も上半期の事業報告があったが、来年度どうするのかということはどこで話されていたのか。運営協議会報告のまとめとか今日の報告の議論とかでかなり時間をとってしまっている。その内容が事業計画に反映されるということか。事業報告の反省からいろいろ・・・市民大学については前回、一つのプログラムについて不満があったとの話が出ていた。多分、市民大学も当初は、運営協議会の最初の頃に配られた市民大学プログラム会議で、いろいろ方針をまとめて出したのだろうが、今日の報告でも事業を作るのに、市民が関わっているところもあるようにも見えるが、運営協議会委員をやってみると、よくわからないところがある。こうして一つ一つの事業のプログラムは書かれているが、全体はどうなっているのかというのも見えないところである。多分、運営協議会は町田市として市民の学習を提供するいろいろな要素の中のどこに力を入れたり、それぞれに自立してプログラム企画をするグループがあったり市民参加団体がある中で、そことどう関わっていくことが、全体としてどういうふうに今必要なのかということ運営協議会で議論していくステップもあるといいのではないか。私は他市の公民館運営審議会もしているが、そこで来年度の事業計画が出たときに平和講座が夏に1回しかなかった。「今、ウクライナの問題などがあるときに平和講座が1回でいいのだろうか」という話が出て、計画全体を大きく変更できる段階ではなかったが、「多分、市民は今、平和とか戦争とかを今まで以上にすごく周りの人と話したい」という状態なのではないかという話になり、運営審議会として「他のいろいろなプログラムの中で、事業を企画する職員が市民と一緒にやる場合には、そこを意識してもらいたい」と一言申しませうということになった。だから、運営協議会で、来年度の事業に向けて話し合う場が見えるといいと思う。これは、今日の報告に対するというより、全体についての意見となる。

【事務局】まず、町田第一中学校の学校開放の件だが、第13回運営協議会で資料を配布しているが、説明する時間があまり取れなかった。冒頭でもお話ししたが、現在、条例改正について市議会で審議中であり、「可決されたら」という仮定の下に計画している中身を簡単に説明する。従前の開放教室は団体利用が前提であった。町田一中についても、当然団体で利用できる施設も複数施設用意してあるが、Wi-Fi設備については、学習支援の一環として学校図書室にWi-Fiの設備を引くことを考えている。図書室を一般開放するのは、市内の学校で初めてのことになる。図書室の利用は、個人利用を想定している。公立の地域図書館のように図書の貸し出しをする機能はなく、図書やWi-Fiによる調べ物についても、個人の自主学習の支援のために活用するという位置づけである。公立図書館の自主学習室や生涯学習センターの自主学習スペースのイメージで、

学校にある書籍などを使っても学習ができるというものである。その他の貸し出し施設としては、団体利用のため、新たに武道場が追加された。武道場が開放施設として追加されたのも初めてである。他に交流ホールと多目的室、それから音楽室、家庭科室。以上の施設を団体利用エリアとして開放する。開放開始は8月1日を計画している。

【会長】学習相談及び今後の事業について議論をしていく仕組みについてもお願いしたい。

【事務局】学習相談について、お話しした民間の紹介だが、報告に記載している事例は「自らがお稽古事の先生として教室を運営したい」という相談であった。公的施設ではそういった施設利用はできないので、近隣の民間のレンタルスペースを紹介したという経緯である。委員からの指摘のとおり、特定の民間事業だけを紹介するわけにはいかない面はある。また、相談の振れ幅自体が広範に渡っており、内容によって福祉になったり、方向性が変わってくるというのも指摘のとおりである。相談に対応するのに、生涯学習だけではなく広範な知識が必要になってくるというのは全くその通りであって、こういった知識をふんだんに持っている職員が窓口にいることが一番望ましい状態であるが、窓口もローテーションでやっており、新人が入ることもある。そういった部分を補完するために、学習相談情報の共有化を、データベースのような形で考えているところである。具体的に学習相談をどういった形でやっていくべきなのか、再三言っているが、来年度、実行計画という形で、具体的にどういう形で生涯学習センターの事業をやっていくか検討していくことになる。学習相談についても、改めて、やり方について検討していきたい。

【事務局】今後の事業計画について、指摘はもっともだと思う。こういったご意見も参考にしながら考えていきたい。

市民大学については、ご指摘のとおり、全体の計画は年末にプログラム委員が集まり、講座毎に検討している。自然だったり、歴史だったり、各講座とも次年度、実際に行うプログラムの内容に話が展開していってしまい、全体を俯瞰して考える場があればいいと感じる。以前は、全体についても意見をもらっていた時もあったので、2022年度は改めてその辺りも含め、市民参加をどうしていくか検討していきたい。

【委員】連携組織のところで、課題として「単なる会場提供から連携の質を高めていく必要がある」とあるが、来年この課題に取り組むに当たって、例えば来年度一件でも何かこういった連携事業化し、会場提供だけではない形、例えば何か共同して講座を開催するとか、新たにに取り組む予定が現時点で何かあるようであれば教えていただきたい。

【事務局】まだ、来年度の施設貸し出しについてはオファーが来ている段階で、詳細

が固まってないところがあるが、例えば、さがまちコンソーシアムとの連携については、従前からご意見をいただいているアウトリーチ展開を、さがまちコンソーシアムが実施している事業についても展開していただきたいと考えている。今年度は、全て会場が生涯学習センターで開催しているが、2022年度は、なるせ駅前市民センターやひなた村といった生涯学習センター以外の公的会場に、センターが仲介して、地域展開をさがまちコンソーシアムにも担っていただくことを試験的に調整している。また、教育委員会指導課がコミュニティスクールを担当しているが、そちらと今、生涯学習ボランティアバンクを、コミュニティスクールを導入した学校側にとって使いやすくなるためにはどうしたらいいかといった検討も始めているところである。まだ、形にはなっていないが、今後こういった形で、単なる場所貸しではなく、協力し、一緒に生涯学習を展開していくような形に変えていきたいと考えている。

(2) 審議会答申・改革プランを踏まえた生涯学習センター事業の推進について

【会長】 スケジュールの関係で、まとめについても議論したいので、先に進むこととする。まず、副会長に報告書について説明をお願いしたい。

【副会長】 報告書と記載しているが、まだ、承認されていない「案」段階のものである。早い段階で皆さんにお示しして、十分に読んでいただく時間を取るべきだったが間に合わず、本日お示しすることになった。前回、皆さんに検討いただいた骨子案を基本的なベースにし、それを文章化した。ただ、前回、皆さんから意見を様々ないただいたので、骨子案をそのまま文章化したわけではなく、いただいた意見を可能な限り踏まえつつ、文章化を試みた。十分に踏まえきれていない部分や、表現の部分で「ここはこうした方がいいのではないか」といった部分もあるかと思う。まだ、修正がきく段階なので、ぜひご意見を聞かせていただきたい。

大きく変えたところの一つが、内容として付け加えた部分で、市民大学の部分である。前回、骨子案を示した際、市民大学について言及している部分が無かった。前回、意見をいただいたときに、市民大学についての議論が出てきたので、過去の議事録をもう1回振り返り、市民大学に言及している部分を確認した。

前回、取り上げた際は、市民大学に市民参加の側面があるというところで議論をしたが、そのことについては、最後のまとめの部分の(2)のところに追記した。市民大学のプログラム作りにプログラム委員という形で住民参加が行われていることと、同時にプログラム委員に対し「なりませんか」という参加の呼びかけの面では不十分なところがあり、より開かれた住民参加の仕組みを

整えることが課題だということを、前回の議論を踏まえて記載した。

その前の議事も踏まえてと思い、議事録を読んだが、市民大学の議論は、「誰もが学べるか環境づくり」のところで出ており、市民参加というよりも、地域課題の解決といった部分での議論が中心だった。本来「2. センター運営協議会での議論について」のどこかで市民大学の市民参加についての内容が盛り込まれていて、それが最後の「3. まとめ」に辿り着く展開が良かったのだが、議論されていないため2章には加えていない。

ただ、前回議論した内容「住民参加・市民参加の仕組みを整える」というのは、今期の協議会の結論として、一つの柱になっていたと思うので、そこに市民大学は落とさない方がいい取り組みだと考えた。また、前回出た課題があるということも明示しておいた方がいいと思い、議論の中では出てこないのに、ちょっとイレギュラーな感じはするが、最後のところに市民大学が出てくる形の位置づけ方をした。このため前から読んでいくと、市民大学は出てきていないのに、突然、市民大学が出てくる感じもし、書いている側でも居心地が悪い書き方ではあるが、こういった書き方になっている。市民大学は落とすべきでない取り組みで、市民参加・住民参加という点では大事な取り組みだと思うので、最後のところに付け加えた。

あとは、これは、本当は十分な時間を取って読んでもらい、意見をもらった方が良かったが、前回、出てきた意見で、「これを落とすべきではない」と私が感じたのは「学習者主体」を大前提にする点である。やはりこれが一番の柱というか一番ベースにあって、これを踏まえて「市民ニーズに沿った生涯学習センター事業の推進について」という話になる。何度も何度も「学習者主体」という言葉が入ってくるわけではないが、やはりこの視点が基調にあって、この内容が書かれていなければいけないことは、皆さんと合意できている部分だと思う。

ざっと読んでいただき、書きぶりで気になるようなところや視点が貫かれていないと思える部分があれば、ぜひ教えてほしい。「3. まとめ」の(2)の最初に、「主人公は学習者であって、町田市においては町田市民の学習ニーズが具体化されるということが何より重視されなければいけない」と言葉としては書いてあるが、全体の書きぶりとして、そういった視点が貫かれていない部分があれば、ぜひ、コメントをいただきたい。

【会長】読みながらの質問疑問になろうかと思うので、少し時間をかけながら進めたいが、この時点で質問・意見があればお伺いしたい。

【委員】まだ読んでいないので、コメントは読んだ上で提出しようと思っている。今の話で、これまで触れてこなかった市民大学について、最後の段階で少し意見が出てきた点は、そういう書き方をすればいいと思う。議論のまとめとして出

す必要はない。さきほど質問し、市民大学のことしか答えがなかったが、運営協議会は事業全体を議論しなければいけない。今期は生涯学習審議会の出した項目について一つずつ議論しているが、生涯学習センター全体の事業に即して深めていないと思う。だから、若者に焦点が当たってしまったが、若者だけじゃなく、例えば家庭教育学級は子育て世代対象だが、もっと丁寧に見たら「外国語しか喋れない子育て中のお母さんをフォローしているのですか」とか、そういう問題意識が事業の中で出てくるはずである。そういうことを私達はもっと丁寧に議論しなければいけなかったのではないかな。それは市民大学もそう
で、関わっている一人一人の改善点はないかとか、改めて思うのは、生涯学習センターの事業が市民大学と一緒にいるということは、全体でどういう学習課題を町田市として市民に提供できているのかということ。「学びの裾野を広げる」というところの位置付けだが、議論はできてないと思う。私は何らかの形でコメントに記載するが、次の段階の議論に繋げるような書き方をしてもらえればいいのではないかな。

【会長】私たちは第5期だが、第4期委員で検討した「市民ニーズに合った生涯学習センター事業推進について（中間まとめ）」が存在していて、そこに肉付けしていくところに、2020年3月の審議会答申の1から4を踏まえて共有してきたという経過がある。「中間まとめ」を更に成熟させていこうという前提があり、そこに記載されているものと、元々存在した答申などを視野に入れながら・・・ということだったが、もう少し広く、委員意見も柔軟に受け入れて、最終まとめができればいいということは副会長もずっと意識してきたと思うので、今の、議論があった点を加えたという書き方でいいのではないかなという意見だと受け止めた。

【委員】この報告書は、どういう形で学習センターの計画に盛り込まれるのか。

【事務局】今回、いただく報告書は、今、案を皆さんでブラッシュアップしている段階だが、最終的には運営協議会からの報告という形で、生涯学習センター長宛に提出いただく。運営協議会からの意見としていただき、私共行政が来年度、あり方見直し方針の実行計画を作っていく際に、第5期運営協議会報告を参考として活かしながら事業を見直していくという位置づけになる。

【委員】どの程度、実行計画に盛り込まれるかは、後にならないとわからないということか。全部が盛り込まれるわけじゃなくて、一部が盛り込まれるということか。

【事務局】今回、報告として第5期の運営協議会の方の意見をいただき、また、来年度、第6期運営協議会も組織し運営していくので、6期委員の意見も聞きながら・・・という形になる。意見としていただいたものが100%最初から入るという保障はできないが、全く入らないというような話でもない。今後、検討して

いくにあたっての資料としていただくもので、現時点でどこまでということ
は、はっきり申し上げられるものではない。ただ、今回の報告は第4期・第5期
と都合4年間にわたって検討してきた集大成であり、そういう重みのあるもの
だと認識している。今回いただく報告は行政としても重みを置いて検討させて
いただく。

【会長】私は会長を務めさせていただいている中で、こういう理解をしながら進めて
きたつもりだということをお伝えしたい。先ほどの繰り返しになるところもあ
るが、私達の一つ前の第4期の方が中間まとめを行い、それを引き継ぎながら、
第5期として私達はやってきたわけだが、前々回、議論になった答申についての
行政の計画については、生涯学習審議会が「生涯学習センターはこうあるべき
だ」という答申をまとめて、教育委員会に提出した。それを教育委員会が受け
止め、承認して「これをベースに、生涯学習センターはどう具体的に活動・運
営していくのか計画を作ってください」ということになり、行政が受け取って
計画し、それを教育委員会に報告して、行政の中で共有しているという状態
である。そういう方針は存在しているが、4年間にわたって私達が議論をしてきた
ものもある。イメージとしては、次の6期の、私達の次を務めてくれる方たち
に、4期・5期で連続して、「生涯学習センターは、このようにあるべきだ」と
いうことを議論したのがあるということ、まず冒頭にお渡しする必要がある
と思っている。あとは、報告には盛り込まれていないが、各委員はこんな思
いを持っていたということ、コメントしたもの、次の委員に手渡すべきだと思
う。それと同時に、教育委員会に出した答申によって、こういう方針を持っ
ていますという行政の方針があり、それらをベースにして、実行計画を第6期
の人が作っていく、そこに沿った形で実行計画を6期の皆さんが議論をしてい
くだろうと考えている。第4期でも、第5期でも生涯学習センターは動きを止めて
いたわけではない。今までいただいた意見もいろいろなところに盛り込みなが
ら4年間やってきたわけで、ここで実行計画をしっかりと作って、学校の再編もあ
るし、公共施設のあり方とかいろいろ求められていることがある。その中に私
達が議論したことが盛り込まれていくのだろう。こう整理をしている。こうし
たことを期待しながら、センター長にしっかりと渡すということで、よろしいの
ではないか。

【委員】今の件に関連して、私も報告の委員コメントに記載したが、ここ2年間やっ
てきて非常にわからないのが、審議会答申を受けて、その中の4つの項目を我々
は議論し、2年間やってきた。こう考えれば、審議会へ我々の検討した内容を
もう1回、「こういうふう考えている」ということを言って、逆に審議会からそ
の4つの項目に対して、我々の議論を何かフィードバックしてもらおう。運営協議
会はこういうことを考えていたという、今回のまとめを審議会に渡して、何か

意見をもらう。その中にまた新しい意見が出たり、また我々が考えていないようなことも出てくると思う。こうしたPDCAを回すようなやり方をせずに、何か一方方向であって、前に進んでいくと感じた、それに対し、どうしようというわけではないが、何か審議会と運営協議会の連携を、今後は含めるべきではないかということコメントで触れている。

【会長】これも私の整理だが、生涯学習審議会については、まさにおっしゃる通りだと思う。生涯学習審議会は生涯学習センターのあり方についてだけ議論しているところではないが、過去に遡ると、比較的生涯学習センターに触れている年度が多いような印象がある。1回はこの間の答申を受けて動き出しているということもあるので、また更に生涯学習センターのあり方とか、今の生涯学習センターについての振り返りについて審議会で審議しようということもあるかもしれない。そういうことになった場合には、当然、この最終まとめも参考にしながら、今回の審議会答申では前回の中間まとめも十分参考にしてもらっていると私は感じているが、そういった営みが必要だと思う。ただ、来年の生涯学習審議会は生涯学習のどこのセクションについて審議をするのかまだ聞ける立場でもないが、我々の活動とリンクするところがあれば、参考にってもらうようにという働きかけは、少なくともセンター長を通じて行われるものだと思う。

【委員】4年間かけて、私は2年だったが、皆さんで議論してきたことがただの議論に終わらずに、実効性を伴うことが一番大切かと思うので、そこはすごく期待している。こんなにみんなで頑張っている、考えているということが、具体的に市民にあまり見えてこないのは、すごく残念に思うので、生涯学習センターを利用している方にはもちろんだが、皆さんに広く知らしめられるような形で、実効性を持った活動をぜひお願いしたい。

【委員】生涯学習審議会の議事録やこの間の答申を読むと、何か主体的に動いている感じではない。諮問を受けて答えるという、しかも、他のいろいろな施設を全部外部委託にするという町田市の方針に絡めてどうするかという議論が、連続して問われて出されている。構図としては、そうなっている。運営協議会での議論はとても積極的だと思うが、それを本当に意味あるものにするには、協議会委員がちゃんと、生涯学習審議会が今、どういった答申をしているか、議事録を読んでどんな議論をしているか、会長が出席されているからその話をもっと聞くとか、学習会を自主的にやらなければいけない。生涯学習審議会の議事録を読むと明らかだが、議論もすごくナイーブで、専門性が必要としながら途中で変わっていたり、生涯学習センターのことを話題にしているのによく知らないとか、あまりよくわかっていないで議論している。そういう点では、本当は運営協議会と生涯学習審議会とで懇談をしてもよかった。生涯学習審議会の

実態がどうなのかというのは・・・一生懸命議論しているというが、それではどうして審議会と懇談を持たなかったのか。私達自身もそうで、私も全然、きちんと関わっていなかったのが問題だが、先ほど委員から「努力している」との発言があったが、私達もそんなに努力していないと思う。市民に対し、どう思いますかという会議を自主的に持っていないわけで、それで市民が知るわけがない。そういうことを、反省を込めて考えておきたい。

【会長】今日、お手元に配っているのも、十分に目を通してもらう時間がない中、コメントをいただきたいというのは無理があるとは思いますが、今回は最後なので、各委員から、報告書の文言についてはこの会議で了解を得たという形にしたい。これが次の第6期の方や、もしかしたら生涯学習審議会にも影響を及ぼすこともあるかと理解している。各自のコメントは別に掲載するが、元々、こういった内容にすべきといった議論はしてきている中で、修正は文章の表現などにしていきたいという話はしてきたところである。事務局に確認したいが、やはり、今日了承をもらわないとスケジュール的には難しいのか。

【事務局】今後の予定だが、今回は委員の集まる最後の会となる。この段階で、内容を確認いただき、大筋については合意いただきたい。これ以降、レイアウトやコメントを追加することになるので、その際、文言修正程度のことにはできる。この辺りは、事務局と会長、副会長で調整させていただきたい。その上で、最終的に、再度確認という形で各委員に原稿を送付する。そこで承認いただいてから冊子にまとめて委員に配布する。本日の段階では、副会長にまとめていただいた報告案の内容について、大筋で合意いただけるかという観点で議論いただきたい。

【会長】皆さんにこの場で確認したい。報告書について「家に帰ってよくよく読み込んでみたら、ここが気になる」といったことがあれば、事務局にメールなどで伝えていただきたい。それを会長、副会長に転送してもらい、議論する場を作る。いただいた意見に関し、その結果をフィードバックする場面は作りにくいので、ここの議論は私と副会長、事務局に一任いただきたいが、よろしいか。

(委員、頷く)

追加で意見をいただいた場合は、できるだけ反映させるような工夫をしたいが、時間の関係もあるので、了解いただきたい。

最後に、2年間、一緒にやってきた仲間なので、これだけは伝えておきたいことを、順番に皆様からお伺いしたい。一人5分程度でお願いできればと思う。

【委員】私は広島から45年前に町田に来た。町田は素晴らしいと町だと思う。環境もいいし、こういった学習事業も、人も素晴らしい。私自身、2年間市民代表として、いろいろと意見を言ってきたが、本当に町田はこんなに素晴らしい町だと

再認識した。私が思うに、事業のレベルは相当高いが、やはりこれをもっと広く、市民に100%知らせたいと思ったら、コメントにも記載しているが、市長を動かすのがいいのではないか。町田は「みんな学べる生涯学習」というテーマで町おこしをしたらどうか。「子どもから大人まで、気軽に学べる生涯学習の素晴らしい町」だということをスローガンにしてやったら、非常にいいのではないかと思っている。一つ思うのが、市長が前に防災無線だったかな、放送で「ワクチンを受けましょう」というのを毎回実施していた。あれはすごく効果があったと思う。だから、市長自ら率先してリーダーシップを持ってやってもらうのが、いろいろな問題を解決していく上で、一番有効だと思う。私もサラリーマンだったから、社長がやれと言ったらみんなやりますから、市長がこれをやれと言えば、みんなやると思う。そういう意味で、やはりリーダーは市長なので、町田の教育事業はこんなにやっていますということをアピールしてもらうのが一番いいと思う。

【委員】私は、今回、運営協議会に参加して、具体的には4つのテーマを議論した。私にとっては、その一つ一つが非常に難しいテーマだった。それで、文章で書くのが混乱するので、できるだけ私は課題を表や図で示して回答した。文章は極力書かないようにして、こういうイメージでいいのかなというのを皆さんに問いかけたつもりだったが、表や図について指摘が皆さんからもらえなかったのは、残念に思っている。こうして2年間過ごしてきたが、それなりに最終的に、全体の、何か仕組みがわかった気がしている。これが1点。

2点目は、先ほど言った、審議会と運営協議会との関係だが、我々のやっていることを審議会にフィードバックして、何か報告して、また、意見をもらうというようなやり方をしていないと、ボールを投げただけで、転がって行って、そのまま川か海に転がり落ちてしまうようなイメージになる。これまで同じようなことを、4期、5期と、何か同じような進め方をしていると思う。表現を変えながら、同じ議論をしていると私は思った。だから、一つのことをちゃんと最後まで成し遂げるような、コントロールする人、マネジメントする人、そういう人が必要だと思う。我々が運営協議会でこういう議論をしていることは、審議会はあまり知らないのではないかと感じた。それが2点目。

それから、町田市をこれから良くするためには、どうしたらいいかという、大きな話。今は、私のイメージでは集中型で物事が進んでいる。集中型の方がやりやすいのだが、それをできるだけ分散型にしていく方向で考えていくべき。必要に応じて集中型と分散型を使い分ける。やはり、地域分散型、地域に浸透していくことが重要で、市民大学とかまちチャレも、今は生涯学習センターでやっているが、それを各地区で、協議会程度のレベル感で分散していく。今、そういう雰囲気になってきているので、だんだん分散していくのがいい。ま

た、ハードについても、インフラの整備もできるだけ手がけていくことが重要かと思う。

皆さんとこうやって議論し、非常に勉強になったことを感謝している。

【委員】2年間委員を務めて、そのまとめと考えると、コメントはギリギリまで、何をどう伝えればいいのか本当にさんざん迷ったが、どうしても当初から思っている一点だけは伝えなければいけないと思い、ちょっと遅れてしまったが、提出したのが、私が提出した委員コメント「原点に戻って考えよう」である。

生涯学習センター、生涯学習という活動がどういうものか定義されたのは、私が調べた範囲では、ここに書いてある通り、1985年のパリにおけるユネスコの国際教育成人教育会議で採択された学習権宣言。これが元になっていると、いろいろな本で解説されている。そこで書かれているのが「教育」と「学習」は違うということで、この意味を皆さんがどう捉えるかはわからない。人によって見方はいろいろあると思う。ただ一般的には「教育」は「教える」側と「教わる」側があり、「学習」は「自分で考える」ことだと定義されている。だから、「自分で考える」のが生涯学習だと思う。自分で考える習慣をつけなさいということが生涯学習活動だと、私はそう解釈している。それでは、教育委員会が行っている生涯学習とは一体何なのか。「教育」ではないと言っているのに、なぜ、生涯学習センターに科せられた業務を教育委員会がやっているのか。これが一貫した疑問であった。このことは、コメントでは、「教育行政が変遷していった経緯についてわからない」と書いたが、実は、本には、日本で生涯学習がどう扱われたか、いろいろと書かれている。政界でどう扱われたか、財界でどう扱われたか、労働界でどう扱われたか、それぞれの立場で書かれている。しかし、それがどうまとまったかという報告はなかった。読んだ本は、昨年1月出版なので、最近の状態だと思う。つまり、現在、生涯学習自体がどうあるべきか試行錯誤中なのだと、私は考えている。それで、皆さんと、せつかくこういう機会があるのだから、「どうすればいいのか、最初に考え直すじゃありませんか」というのが私の提案である。委員を辞めたとしても、私は、生涯学習について市民の1人として行動を続け、何かしていくつもりはあるので、「本来、こうあるべき」ということは考え続け、機会があれば、意見具申したいと考えている。せつかく、こういう機会があるのだから、ぜひとも皆さんも一緒に真剣に考えてください。最初の出だしで「教育」ではないと言っているのですよ。その事をどう考えるのか、課題として皆さんにも考えていただきたい。私はこれまでも言ってきたが、「教わる」ことより「考える」ことが大事だということ。「考える」習慣をつけさせるのが生涯学習である。自分で何とか解決策を見つけるように考えるのが生涯学習だと。ちょっと言い過ぎかもしれないが、私の解釈は、日本が自由主義、民主主義の国だからだと考

えている。教わるだけで、言われる通りの生活をして人生を終えたら、プーチンの下で終わるロシアのようになる。生涯学習が担う役割は自明である。自由主義、民主主義である。各人が主権を持っている国だから、一人一人が主権を持っている国だから、だから自分で考えて行動しなければいけない。私はそう解釈している。皆さんにも考えていただきたい。

【委員】 就任当初はコロナが流行しており、当時、私は感染にすごくセンシティブだった。世の中自体も安定していなかったため、事務局にオンラインでの参加を打診した。当時はオンライン会議も試行錯誤で、1回目だけは準備できずに集合で参加したが、2回目からしばらく、オンラインで参加した。去年の今頃、もう1回、集合で参加し、その後、また、オンラインになったが、その頃にはオンラインでも落ち着いてやりとりができるようになり、ありがたかった。コロナだけでなく、大学の講義もあり、集合形式だけだったら欠席せざるを得なかったところだった。オンラインのおかげで参加でき、助かった。

ただ、私も、なかなか慣れずに、ようやく全体像が見えてきたと感じている。町田に関係がなかったわけではなく、ここに移る前の公民館には学生を連れて見学に行ったこともある。町田に女性学級の講座があった頃、今日、（当時の参加者が）傍聴に来られているが、その時、直接、繋がっていたわけではないが「自主」、今、委員が話された、自主的に考えて、自分たちで学習を組み立てていくという実践がすごく大事にされていて、町田にはそのイメージがすごく強くあった。しかし、審議会の委員になることもなく、あまり繋がっていなかったのも、今、どうなっているのかよくわからない。多分、個々に見たら、そういった講座があるのだろうが、当時、高らかに掲げた内容に惹かれて学び始めた方がいて、そういう人が改革したのを、今日、傍聴されているような方たちがずっと一生懸命、そういうものを大事にして、今、委員が話したことを大事にしてやってきた歴史は、なんとなくわかっている。この間、まちチャレの講座に呼ばれ、改めてもう1回勉強し直して、昔の資料などを見て思い起こした。町田にはそういう歴史があったので、それをもっと意識的に自覚してほしい。今、委員が話したことを、もう一度そこを大事にしようというのは、先ほど副会長が今回の報告のポイントに入れると言っていたことと呼応すると思う。昔はもっと丁寧にやっていた気がする。職員がもっと歴史を学び、もう一度その力を活かしていこうという方向になるといい。ただ、少し見えてきた段階でもよくわかるのは、やはり一つしかない限界。多摩地域の中でも人口がすごく多いわけで、一つ一つやっているものは質が高いかもしれないけど、やはり、ちょっと違うのではないかな。公民館とか生涯学習センターでやっているような働きかけは少なくとも、合併前の町村レベルで行われるべきである。先ほど相談窓口の話があったが、いろいろ他の行政部署と繋がるというよ

りも、教育。先ほどの委員の言う、上から目線の教育ではなくて、その人が自分で考えて学ぶ。なかなか、そういうのが今、どんどんどんどん学校教育でも後退しているし、大人になってからでも後退してしまう。それを自分で考えるようにするということまで行くのは大変だが、大人になってからでも、上から押し付けるわけではなく、「なんとなく自分で考える方がいいね」とか「そういう魅力的な人がいるね」とか気づくチャンスを作っていくには、単にアウトリーチでは駄目だと思う。協議会で議論していることが本来の社会教育の視点で、生涯学習審議会ではもっと現実的な課題に取り組んでいるのだろうが、そこに違った視点で展開できる仕掛けがあれば、もっと町田の市民は、委員の話にあったように、自分で考えることができ、そうすると、すごくいきいきする。ここにいてよかった、町田でよかったとなると思う。2年やって、ようやく全体が見えてきたと話したが、少なくとも今の体制だったら、運営協議会でもっと全体を見て主体的に議論して、今までよくできていたものを、あるいは、その後も工夫されたものをもう一度、本当に先ほどの委員の発言に賛同しますが、そこを始点にして、何か一歩進めるように、この運営協議会をうまく運営して欲しい、活かしてほしいと思う。そうすると、委員になった人も楽しく、時間の都合ができれば、自主的に学習しようと思うのではないか。そういう点では、最初に研修がないのも問題である。先ほどの委員の話も、細かい点では、例えば生涯学習という言葉は85年ではなくもっと前から出ているとか、成人教育についても私は専門家なので、ちょっと違うと思いながら聞いていたが、思想的にはすごく同じだと感じている。公民館や社会教育の研修をちゃんとやって出発すると思う。

【委員】私は、生涯学習センターに少し関わりを持ったことがあった。その中の1人だということで、委員に選ばれたと思っている。だから、できるだけ現場の視点、具体的な活動の視点で話すように努力してきたつもりである。それで、町田だけではなくて、いろいろなところで、こういうことやっているという事例を話してきた。この2年間、最初から「市民ニーズに沿った」という枠があり、その中での議論だった。その中で、話題になった活動、もちろん市民大学は、この生涯学習センターができたとき、公民館活動と市民大学が2つの柱だったので、当然出てくるのだが、事業報告でこれだけ受けていて、これだけの活動をしているわけである。これだけ活動していれば、いろいろ活動してきた中で、いろいろなものにぶつかってきていると思う。その時々には職員やそこに参画している方々が、いろいろな工夫と知恵で乗り切って活動を、この十何年間、続けてきているわけである。その知恵は、とてもすごいものだとは私に思っている。どういうことがあったのか、私達を知ることはとても大切だと思う。半期ごと活動報告があり、この活動の全体は、大まかなことはわかっている。何回

も受けているので、皆さんも分かっていると思う。ただ、この「市民ニーズに沿った」という点ではどうかということ、私達は、例えば市民大学の中でも、この点はどうか。市民が自由に発想し発案し、企画して参画していくことが課題となるのであれば、それは一つ一つの事業で、その部分はどうか、市民はどうこの活動に関わっているのか、企画の点ではどうか、委員募集で市民公募をしたのか・・・それだけでなく、市民参加にはいろいろなやり方があると思う。これだけたくさんの事業があるのだから、いろいろな方法があると思うが、一つ一つの事業がどうだったのか、私たちはあまり検証せずに、これだけの活動を、生涯学習センター全体でどうであったかという話をしている。だから、もう少し具体的な話をしたかった。私は、報告が生涯学習センターの活動現場の実情に沿ったもので、これが具体的な活動指針に繋がってほしいと願っている。一つ一つの活動の細かいところをあまり考えないで議論しているのは、現場から離れた話で、しかもそれを文章化するということは、私は言語化するということは、ある意味で抽象化だと考えている。だから、そうすると、ますます現場から離れたものになっていくのがとても怖いのだが、そうならないような形で収まってくれば一番いいと思っている。だから、もっと具体的に一つ一つ、どんな活動をしているのかを検証すべきだと思う。例えば、センターまつりの報告があった。センターまつりというのは、公募で委員を募集し、その企画運営委員が職員と一緒に企画段階から作っていき、事業終了後、振り返りを実施する。こういうシステムが他の事業ではどうなっているのかというようなことがある。それから、もう一つ。いろいろなニーズの問題である。先ほど福祉の話が出たが、福祉で困った人たちは、学習から始めましようとは思わないのではないか。福祉の問題で、こういうことで困っているという人は、福祉の勉強をどこでやろうかとは考えないと思う。福祉課行きますよ。福祉課とこのセンターで、学習をどうやるかというのは、当然、連携になる。連携、連携と言っているが、今までは、どう処理してきたのか、その知恵はどこにあったのかということ、それぞれのところ、お母さんたちの子育てにしても、何にしてもそうだが、今までどうしてきたのか、私たちはちょっと、頭のところに戻って考えないといけない。今回は、前期からの中間報告を引き継いでいたので、もう1回、ベースに戻って考えることができなかったが、やはりどこかでそういうことを織り込みながら進めていかないと、宙に浮いたままになってしまうのではないかと心配している。ちょっと関わったものもあるが、これだけの事業を全部理解するのは不可能で、そこから言ったら、次は何年もかかってしまうので、実際、難しいが、振り返ることも大切だと思う。この2年間で具体的に議論していないものがいくらでもあると思う。しかし、その中でも、いい知恵だってあったはずである。こういった点

も、これから考えていかないといけないのではないか。

【委員】今まで皆さんの意見を聞いて、もっともだと思う。私も協議会に参加して、最初に思ったことだが、事業を円滑に活動、運営していけるのも生涯学習センターの尽力によるものだと、支援に市民として感謝している。

それで、私が一番感じたのは、人によって市民ニーズの捉え方が違うということである。私は障がいを持つ子がいる、障がい者の親の立場で、皆さんは市民の立場。子育て中の方だとか、大学生、社会人、外国籍の方など、こういった方々の市民ニーズを、どこまで全体的に網羅できるのかというところすごく難しいと感じている。そこを、この協議会での議論を踏まえ、皆さんにいろいろな体験・学習ができる場になってほしいと思うし、生涯学習センターは、私達市民の拠り所になってほしいと思う。私自身、息子がここに20年来、足しげく通わせてもらっているが、生涯学習センターの未来について、もっと知りたいと思う。皆さんが話したいろいろなことも大切だと思うが、市民1人1人が親しみの持てる生涯学習センターになってほしいと思う。ハードルを上げないで、敷居を高くせず、気軽に「来たいな」と思えるような生涯学習センターになってほしい。

最後に、皆さんにはいろいろとお世話になった。いろいろな意見を聞き、私自身、知らないことで勉強になった。次期委員になる方もいるかと思うが、実行計画作成は、よろしく願いしたい。

【委員】わからないまま議論している者の1人として、2年間やってきたが、力不足を感じており、次期は別のコーディネーターに引き継ぐ予定である。皆さんのお話を伺い、その立場の違い、それぞれの立場からの考えや感覚の違いがあり、様々な意見があるのだと、ひしひしと感じた。これは、学校に戻ってからも、また職場で活かせるよう、地域の方たちと共に頑張っていきたいと思っている。

一つ、提案だが、ある程度方向性を決めていく、物事を進めていくためには、この会の回数が、ちょっと足りないのではないかなと感じた。やはり、議論に議論を重ねて、討議すればするほど、いい意見が生まれてくると思う。今後、また続くのであれば、もう少し、回数があった方がいいと思う。

【副会長】私は2期目なので、前の「中間まとめ」をまとめた期から継続している。今期、副会長として関わったが、やはり、意見をまとめるのは大変だと実感している。今までの皆さんのコメントにも出てきたが、なかなか具体的な事例を丁寧に、皆で共有しながら考えていくということが、限られた時間の中では非常に難しかったと思う。あと、例えば生涯学習審議会もそうだし、あるいは実際に公民館、生涯学習センターで活動している団体や市民の方から話を聞く。本当は、この運協の途中で、こういったことをやりたいという話が出ていたが、

実現しないまま、終わってしまったのが心残りである。ここは会議の場、議論の場ではあるが、一方でここが学習の場であるということも、とても大事なことだと思う。私は社会教育の研究者という立場でここに参加していて、4年目になるが、なかなか町田のことについて、私自身、まだまだ不勉強な点がある。やはり、社会教育や生涯学習の場は、地域が変われば要素が全然違うので、他の自治体のことを知っているから町田のこともわかるというわけでもない。そうした中で、もっと町田のことを、私自身が学ばなければいけなかった、あるいはもっと町田での活動を丁寧を知ることを大事にしなければいけなかったなと思う。多分、ここにいる皆さんも、自らの実践や活動はあるが、他の実践はよくわからないという思いを抱えながら参加されていたのではないかと。ぜひ、6期では、皆で学び合う機会も一方で作りながら、協議会がまた2年、続いていくといいと思う。

【委員】私は、町田の市民大学をいろいろとお手伝いしていた関係で参加している。市民のニーズというものを、いろいろと考えてきて、最後の半年間は入院したりして、なかなか参加できずに申し訳なかった。こういうコロナの中でも、市民が学びを通して、接点を持って繋がっていく場というのが、ますます大きくなってきたなと実感している。今後も、またいろいろお手伝いさせていただければと思っている。

【会長】私からも少しお話をさせていただく。皆さん、2年間本当にありがとうございます。前会長から引き継いで、皆さんからお話もあったが、元々、ベースになるものがあり、なかなか自由な議論ができなかったのは、本当にその通りだと思う。もっと、皆さんと議論の場を設けるように働きかける必要があったのではないかという思いもある。審議会に出席した際に、少なくとも皆さんの意見は伝えてきたつもりである。センター長と一緒に伝えてきたつもりではあるが、その後に議論の機会が十分に取れなかったことは、反省している。

最後になるが、行政だけではなく、ここにいる皆さんもそうだと思うが、いろいろなまち作りの会議や福祉の会議、町田市が計画を作る会議に参加している中で、ここに生涯学習センターの方がいたらいいなと思う機会がいっぱいある。例えば、福祉総務課と市民共同推進課が「町田市ホッとプラン」を策定している。様々なカテゴリーについて、まち作りと福祉をバラバラにしないで一緒に考えようというものだが、こういう立場をいただいているから思うことでもあるが、これは教育の部分でも関われると思ったことが、多々あった。「ホッとプラン」については、策定されたものを見ていただきたいと思うが、プランには、どこの部署がどの部分に具体的に関わっていくか記載されているが、生涯学習センターが関わる部分は極端に少ない。横断的に、人々が学んで繋がることを考えれば、生涯学習センターはとても期待できる部署だと思う。予算

や人員が限られていることはよく承知しているが、場合によっては運営協議会の委員の誰かが出席することもあってもよかったのではないかと思った。生涯学習と関係の深い公民館の集まりについては毎月、委員が参加しているので、そんなことも考えた。

あと、学習相談は非常に有効だと思う。これからアウトリーチが始まる中、子供からお年寄りまで様々な立場の人が「自分が学ぶ」ことについて相談できるところが、ここだけではなく、いろいろな所にあるといいと思う。これも冊子が出されているが、町田市は「市民センターのあり方を検討しましょう」ということでも学校再編と合せる形で、計画が進んでいる。例えば、相談を市民センターで行えないか。市民協働推進課は、市役所の部長経験者を週1回市民センターに派遣して、地域市民活動室というものを設けている。何でも聞いてくださいという方が、住民票を取ったり納税証明を取ったりする場所の脇に座っている。その方と、福祉総務課が進めている地域福祉コーディネーターをどう合体させていくかという議論がある。住民票を取りに行くと、福祉の何でも相談も受けてくれる、地域で生きていくことについて、何でも答えてくれる、もしくは繋いでくれる人がいる。私は、そこに教育相談もあつたら、学習相談の人が一緒にいるといいと考えている。これもいろいろな議論があるかもしれないが、マイナンバーが普及して、デジタルで申請して住民票が取れるようになれば、各市民センターの窓口はこんなになくてもいいかもしれないという議論も同時にされている。空いたスペースで、福祉相談や市民相談をやろうという話になっているが、そこに学習相談をぜひ入れてほしいと、具体的にしていきたいと思っている。これには行政がやるということだけではなく、地域で何ができるかという視点も必要だと考えている。ちょっと愚痴になるかもしれないが、その審議会では、私のやろうとしていることは市民活動だから駄目だと言われている。もっと行政が責任持ってやらなければいけない領域があるとか、行政と市民だけではセンスが良くないので民間を入れる必要があると言われ、私のやろうとしている方向に進んでも結果的に全部が良くなるわけではなく、バランスが必要だとずっと言われてきている。それでも、私は、あらゆる相談窓口を各市民センターに設置することについて、まず、ハード面から頑張ってみたいと思っている。ただ、地域活動していく中で、やはりプレイヤーが少ない。議論する人はいっぱいいて、「こうして」、「こうあるべき」という意見は多いが、一緒にやろうとする人がいない。ここで、この2年間に副会長から教わったのは、学習の中心は本人、学習者本位でなければ駄目ということで、行政や地域がこういう人材が欲しいからと意図的に仕組んで教育するというのは絶対駄目だと言われてきた。そういうものなのだと思うているが、私がとても楽しそうに市民活動しているのを見てもらい、何か自主的に手伝いたいと言っ

てくれる人を作っていきたい。後で「騙された」と言うのは駄目だと思うので、小さな学習相談コーナーを各地域に設置し、そこに自分でやってみたい活動とセットになる教育があるといいのかなと考えている。

力不足だったが、皆さんと過ごせた2年間は、私にとっても財産となった。ありがとうございました。

【事務局】先ほどお話したが、報告案は、会長・副会長と調整した上で、最終稿として一度皆さんに送付するので、確認をお願いしたい。報告に添付する委員コメントを未提出の委員は、1週間以内に送付いただきたい。